

【研究内容 学校行事（避難訓練等）】

地域を学び地域を愛する子供を育てる防災・安全に関わる学校行事  
内陸部と沿岸部での共通点をたどった取組を通して

宮城県大崎市立鳴子小学校  
教頭 早坂 潤

## 1 主題設定の理由

最近、大地震や豪雨、台風等の自然災害が各地に甚大な被害をもたらしている。このような現状の中、内陸部、沿岸部それぞれの場で地域性を生かした避難訓練等が進められ、今後想定される自然災害への意識付けが図られている。避難訓練等の学校行事を行うにあたり、各校では、警察署や消防署等の関係機関、そして保護者や地域の方々と連携を取りながら、安全・防災に関わる学校行事等に取り組んでいる。年間を通した主なものを挙げると、交通安全教室、避難訓練（地震、火災想定）、引き渡し訓練、防犯教室等である。訓練時の子供たちの様子を見ると、放送をしっかりと聞き、素早く机の下に身を隠したり、机等のないところにいる場合は、自分の頭をしっかりと守る行動を取ったりと、これまで教えられてきた一連の流れを素早く行うことができる。しかし、大地震や津波、土砂災害等が実際に発生した際に身の回りの環境がどのように変わってしまうのかをイメージしたり、災害発生時に想定しなければならない自分たちの身の危険を考えたりした実状を捉えた訓練には至っていないように感じる。このような実態から子供たちに望むことは、①地域の特徴から想定される災害を考えることができる力、②災害発生時の環境の変化に対応し、自分で身を守ることができる力、③安全を守るための生活を意識し、いざというときの自分の行動を考えることができる力、④これまでの災害から立ち直ってきた地域の姿を感じ取り、地域のすばらしさに気付くことができる力を付けることである。この力を身に付けさせるためには、学校が保護者や地域、関係機関等と協働した防災・安全教育の取組を学級活動、教科等の中で実践し、防災・安全に関わる学校行事との関連を図っていくことが必要と考える。そこから得た子供たちの安全・防災に関する知識と意識の高まりは、子供たちの自信となり、自己有用感を得ることにつながり、今後実状を捉えた訓練等につながるのではないかと考え、本主題を設定した。

## 2 実践の概要

### （1）地域を学び地域を愛する子供を育てるために

平成27年度から平成29年度までの3年間は内陸部の大崎市立岩出山小学校で、平成30年度より令和2年度まで沿岸部の南三陸町立志津川小学校で安全・防災教育の推進に取り組んできた。内陸部、沿岸部で共通に実施されている避難訓練等の学校行事の実施に当たり、地域の方々と協働することで子供たちが命を守るための知識と自分の地域の良さを再認識できるように、日常の防災・安全教育の中で以下の3点を大切にしながら実践した。

#### ① 災害に備えた「地域を学ぶ活動」の有効性を考える

内陸部の過去の災害等をまとめた地域教材（岩出山歴史編・現代編）を沿岸部の志津川小でも活用したり、東日本大震災前の志津川のまちの様子等を地域の方々から学んだことを教材化したりし、内陸部と沿岸部で意識しなければならない災害の違いや共通点に気付かせる。 【視点1】

#### ② 地域の方々から「地域を愛する心」を学ぶ

内陸部の岩出山地区、沿岸部の志津川地区それぞれが地域の自然や歴史、過去の災害等に詳しい方が存在する。その方々の話を聞くことにより子供たちが地域の自然や歴史、過去の災害等で先人たちが苦境を知恵で乗り越えた勇敢さに目を向けさせる。 【視点2】

#### ③ 避難訓練等の行事に課題をもって取り組む

現在全国で発生している自然災害と結び付けながら避難訓練の必要性を「安全タイム」で明確に示

す。ここでは、実状を捉える、過去の災害に目を向ける、地域の方々や警察署、消防署等の関係機関との協働を通して子供たちが学ぶ訓練とし、訓練後に安全・防災への意識を高めていく。【視点3】

## (2) 内陸部と沿岸部での共通点をたどった取組例として

以下の取組は一般的に取り組んでいる防災安全に関する学校行事等である。これらの取り組みの中に、「地域を学ぶ活動」や地域の方々や関係機関による専門的な部分の指導にふれることで、子どもたちの訓練等への臨み方だけでなく、自分の住んでいる地域や環境にも目を向け、防災・安全に関する知識・理解が得られるのではないかと考えた。

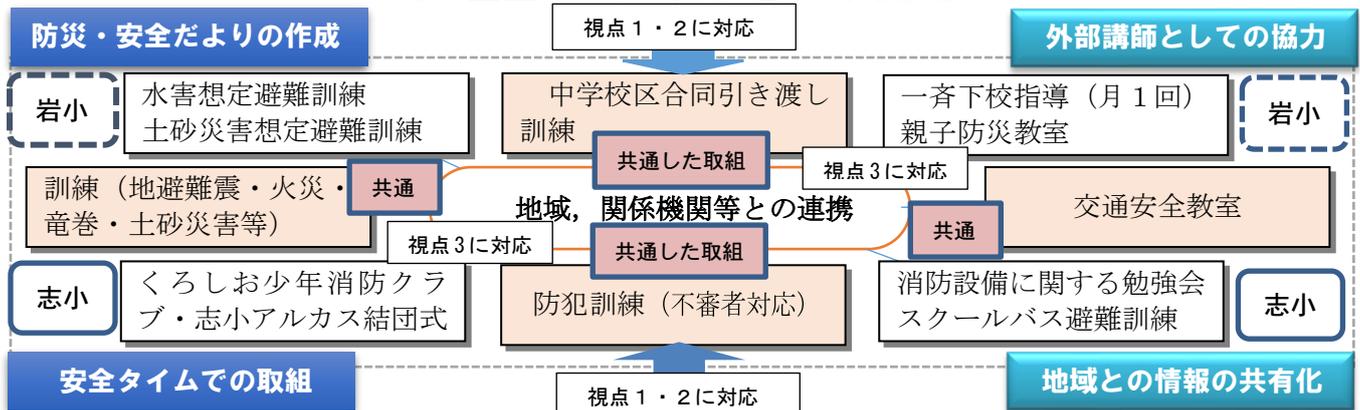
### 《岩出山小（内陸部）と志津川小（沿岸部）の防災・安全に関わる学校行事等への迫り方》



岩出山小学校では、防災安全教育に係る行事に、学校・地域防災安全委員会のメンバーも関わり、毎年行う避難訓練等がマンネリ化しないように話し合いを行った。また、学校・地域防災安全委員会で安全マップの作成等の研修を取り入れたり、過去に発生した自然災害について資料を持ち寄り、情報交換をしたりすることで大人が「地域を学ぶ活動」の場を設けてきた（子供たちへの還元をねらいとする取組）。

- ・明治9年岩出山大火の話
- ・明治43年の大水害の話
- ・アイオン、キャサリン台風の話
- ・有備館についての話
- ・岩出山小学校の歴史
- ・木造校舎の話（古川第一小学校を例に）

### 【岩出山小学校（内陸部）の取組】



### 【志津川小学校（沿岸部）の取組】

- ・津波の話（明治三陸大津波，チリ沖地震津波）
- ・昭和12年志津川大火の話
- ・地域に伝わる昔話
- ・志津川小学校の歴史
- ・内陸部で発生した災害（岩出山「歴史編」「現代編」）

志津川小学校では、防災安全教育に係る行事に、関係機関（南三陸消防署，南三陸警察署）との連携を大事に進めてきた。子供たちだけでなく教職員も防災・安全に関わる知識をもって避難訓練等に臨めるように常に、アドバイスをもらってきた。また、避難訓練等で過去に発生した災害等の話を関係機関や地域の方々より情報を集め紹介し、「地域を学ぶ活動」につなげた（子供たちへの還元をねらいとする取組）。



## (3) 内陸部と沿岸部での共通点をたどった実践例より

### ① 災害に備えた「地域を学ぶ活動」の有効性を考える

岩出山地区の方々や大崎市教育委員会文化財課の方々からの協力をいただき2年間に渡り過去の災害等をまとめた「岩出山歴史編・現代編」を志津川小学校でも活用し、自分たちの身の回りでも共通して起こり得る自然災害について考えさせた。また、保護者に配布する「安全防災だよりの」の中に、「地域を学ぶ活動」と題し、地域の方々から教えていただいた昔からの言い伝えやまちの復興に伴う

地域環境の変化を載せることで、保護者の地域理解を深め、家庭内での防災・安全への意識が高まるようにした。



岩出山で発生した過去の災害の様子を志津川の子供たちに学級活動を通して紹介

沿岸部の子どもたちにとって、河川の氾濫による水害や土砂災害等の自然災害は、自分たちの生活とはかけ離れているような感じがしたが、土砂や大水が襲った後の様子の写真や絵を目にすると、津波と同じように人々の家や生活を飲み込んでしまうことを感じ取ったようだ。また、明治9年の岩出山大火の話と昭和12年の志津川大火の話から、火災発生の原因を考えたり、大火に襲われた人々の苦悩を、資料を通して気付いたりすることができたと考える。

## ② 地域の方々から「地域を愛する心」を学ぶ

当時の岩出山小学校では、学校・地域防災安全委員会の一員でもある「内川ふるさと保全隊」の方々を中心となり、「世界かんがい施設遺産」に認定された「内川」での生き物調査等を通して、子供たちに地域のすばらしさに目を向けさせてきた。一方、志津川小学校では、地域の「くろしお見守り隊」の方々、子供たちの登下校の見守りの他に、子供たちと一緒に作物の苗植えや収穫の場を設定し、子供たちとのふれ合いから互いを知り、朝に横断歩道等で出会った際にも気軽に挨拶ができるような雰囲気づくりにつながる活動を行った。



くろしお見守り隊の方々と一緒にサツマイモの苗植え

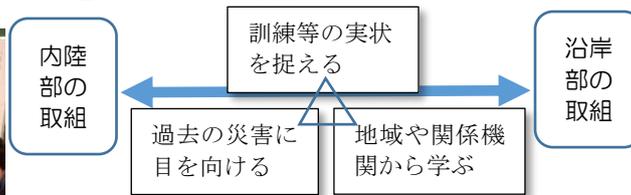
## ③ 避難訓練等の行事に課題を持って取り組む

内陸部、沿岸部それぞれ地域によって避難訓練での対象とする災害に若干の違いは生じるが、課題意識をもって避難訓練等に臨ませるためにも実状を捉えさせて取り組ませることが必要と考えた。以下の「実状を捉える」、「過去の災害に目を向ける」、「地域や警察署、消防署等の関係機関から学ぶ」ことのつながりを大事に、避難訓練等を実施した。



岩出山小 安全タイム

土砂災害、水害に関する資料提示【岩出山小】



### <課題意識を持たせるための「安全タイム」>

「安全タイム」での指導が避難訓練等の事前指導だけに生かされるのではなく、訓練を行うことへの課題意識につながるように、各学級で活用する資料を精選した。



志津川小 安全タイム

津波に関する資料提示【志津川小】

## 3 成果と課題

### (1) 取組の成果

#### ① 災害に備えた「地域を学ぶ活動」の有効性を考える

「岩出山歴史編・現代編」を志津川小学校でも授業等の中で活用することにより、子供たちは、地域によって発生する災害に違いがあることや、自分たちが住んでいる志津川のまちは津波だけでなく、土砂災害や火災、倒木や出水などの自然災害が発生する確率が高いことを感じ取ったようである。また、東日本大震災より10年が経過し、まちの復興に伴いバス通学から徒歩通学へ転換した地区が多いことから、子供たちの身の回りで予測される危険への意識がさらに高まったと考える。

**<子供の感想より（志津川小学校）>**

早坂先生から、岩出山で昔起きた水害の話の聞いたとき、小学2年生の女の子が流された話をしていたけど、私たちのまちでもチリ地震津波のとき、八幡川で同じようなことがあったことをおばあちゃんから聞きました。私たちの身の回りにはいつ起こってもおかしくないいろいろな災害がたくさんあることが分かりました。



どちらかというと受け身的であったスクールバス避難訓練は、バスリーダーが中心となり、バスの運行コース上で予測される自然災害等をハザードマップで調べてから避難訓練に臨む姿が見られた。

**② 地域の方々から「地域を愛する心」を学ぶ**

内陸部の岩出山小学校では、学校・地域安全防災委員会の方々を中心に、沿岸部の志津川小学校では、「くろしお見守り隊」の方々や消防署や警察署等の関係機関の方々に協力をいただき、フィールドワークによる地域を知る活動や地域の方々とのふれあいの場を大事にしてきた。志津川小学校では、子供たちが南三陸消防署等の関係機関の方々や地域の方々から学んだことを基に、「自分の命は自分で守る」ための避難場所が本当に今の場所でのよいのかなどを考えるようになった。



**<子供の感想より（志津川小学校）>**

上山公園には、津波がきたという目印の柱があります。これを木で作ったのは訳があるそうです。木で作るといつかこわれて、また作り直します。そのとき、津波が襲ってきたことを思い出すということなのだそうです。災害が起きたとき、さんさん商店街の人たちを守るための場所であることも教えてもらいました。私はこの話を聞いて、南三陸町はすごいと思いました。こんなに災害で被害を受けてきたのに、もとどおりになっているし、昔から自分のまちを大事にする人たちが大勢いたことがすごいと思いました。

**③ 避難訓練等の行事に課題を持って取り組む**

令和3年2月13日（土）の午後11時8分頃、福島県沖を震源とする大きな地震が発生した。県内では、震度6強に達した地域もあった。南三陸町では震度4を観測したが、普段の震度4の揺れより強く感じた地震であった。この地震が発生したときに子供たちがどのような行動を取り、自分の身の安全を守ったのかをアンケート調査を行った。アンケートの一部と調査結果が以下のものである。

**みなさんは、2月13日の地震が発生したとき、学校で行っている避難訓練を思い出すことができましたか。**

- ア 避難訓練のようにあわてないで行動した（外に出るなど）。
- イ 避難訓練で行っているように頭を守った。
- ウ 避難訓練のような行動がとれなかった。
- エ その他（寝ていた。行動に迷いがあった。）



全体的に見て、初めに自分の頭を守る行動がとれていたところに、日頃の避難訓練の成果が表れていると感じる。



**(2) 取組の課題**

ここまで、内陸部、沿岸部の共通点として学校と地域、消防署や警察署等の関係機関との協働を大切に、子供たちが実状を捉えた避難訓練等に臨む姿を目指して取り組んできた。その過程で得る知識等の構築は、いざというときに判断する力や他人の命も守れる力につながっていく。今後、遠からず発生するとされている大地震のことも念頭に置きながら、現在勤務している内陸部の鳴子小学校でも沿岸部で学んだことを生かさなければならない。